

## PNS導入後1年の評価 ～アンケートを用いて～

平井 大也      外木絵理子      木村恵利子      大城亜紗美  
小長井裕恵      佐藤 みわ      植松 知子

静岡赤十字病院 3-9病棟

**要旨：**当病棟では、2013年1月からパートナーシップ・ナーシング・システムを導入した。その評価のために3ヶ月毎に病棟看護師を対象に計4回アンケートを実施した。アンケートからは、①パートナーシップ・ナーシング・システム導入直後と比較し徐々に安全性の評価が低くなった②プライマリー患者と深く関わっている反面、精神的援助の時間を取ることができているとは限らないという2つの結果が出た。そこから現状と問題点について考察すると、①安全性に関してはインシデントの件数自体は減少している。しかしペアに依存してしまい、お互いに確認が疎かになる傾向もみられた。②プライマリナーシングにおいては、精神的援助の時間を作るための業務調整が充分に行われていない現状があった。結論として、PNSのマインドである「自立・自助の心」「与える心」「複眼の心」の3つを併せ持つことが、パートナーシップ・ナーシングシステムを成功に導くために重要であると再認識できた。

**Key words：**PNS, PNSマインド

### I. はじめに

パートナーシップ・ナーシング・システム（Partnership Nursing System：PNS）が導入され1年が経過し、看護体制としてようやく軌道に乗ってきたように思える。PNSプロジェクトとして、安全性と効率性の向上・プライマリナーシングの推進・On the Job Training（OJT）の充実を目標として活動を行ってきた。その評価として3ヶ月ごとにアンケートを実施した。PNSの導入により上記の3項目は充足できると考えていた。しかしアンケート結果からは、安全性の向上とプライマリナーシングの推進については異なる現状が見えてきた。今後のPNSの課題について示唆を得たので報告する。

### II. 実施方法

PNSの現状と問題点の把握を目的としてアンケートを作製し、3ヶ月毎に計4回スタッフを対象にアンケートを実施した。

評価考察のために、最終アンケートでは意見を記入してもらった。

### III. 倫理的配慮

アンケートは、無記名とし個人が特定されない事、研究への参加・協力は自由意志であり、同意しないことによる不利益は受けないことを支障で説明し、アンケートの回収をもって同意とした。

### IV. 3-9病棟のPNS体制

1. クリーンエリア内とエリア外の2チームに分かれ、6ヶ月毎エリア内とエリア外をチーム毎変更する。1年間パートナーとチームは固定である。
2. 日勤帯では、プライマリー患者は100%担当する。パートナーのプライマリー患者は出来る限り担当する。
3. コーディネーターは全体を俯瞰し、業務調整をする。

## V. アンケート結果

### 1. 安全性

#### 1) 高い評価の意見

- ・患者を理解しているペアでダブルチェックを行えるため、安全性が高まる。
- ・わからないことを解決しながら、看護を行える。

#### 2) 低い評価の意見

- ・ダブルチェックしている反面、相手に任せてしまうことがある（図1）。

#### 3) MRMの結果：ダブルチェックが不十分であることが原因によるインシデント（図2）。

PNS導入前2013.1～2013.12：16件

PNS導入後2014.1～2014.12：5件

### 2. プライマリーナーシングについて

#### 1) 高い評価の意見（図3）

- ・業務中患者に関わる頻度が多くなり、情報を得やすくなったため関わられている。
- ・（日勤帯では）必ず担当するため、問題点に

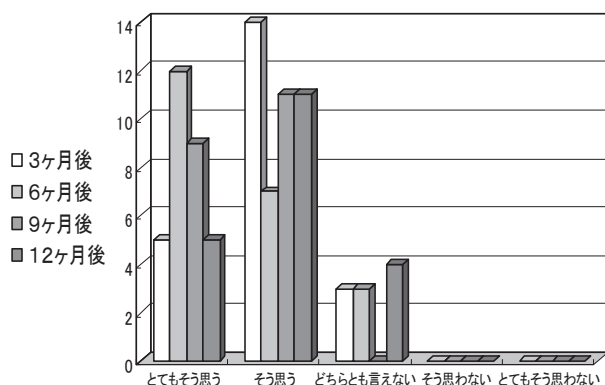
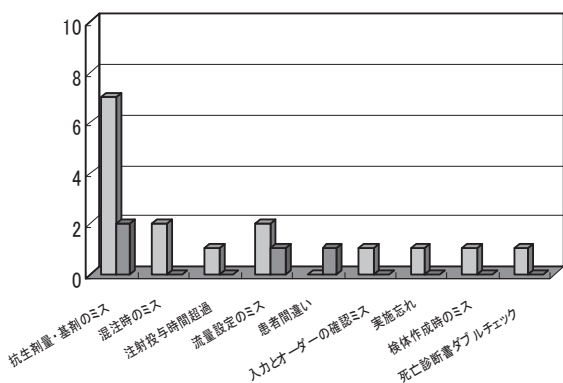


図1 ペアで行動すると業務の安全性が高いと思うか



□ PNS導入前 2013.1月～2014.12月 ■ PNS導入後 2014.1月～2014.12月

図2 PNS導入前後のインシデント比較

早く取り組める。

- ・関わる機会も多いため、不安の訴えなどを聞くことができる。

#### 2) 低い評価の意見（図4）

- ・ペアの人と動いているためプライマリー患者とゆっくり話せない。
- ・忙しく、勤務内でプライマリー患者と話す時間は取り辛くなった。
- ・プライマリー患者との時間をとることより、ペアとの業務を優先してしまう。
- ・仕事が忙しいため、プライマリーには自分の時間外でゆっくり時間を取ってほしいとするが、十分に時間が取れない。
- ・復帰直後であり、精神的援助について考えながら働いている余裕がなかった。
- ・自分一人の時間調整ではないため、PNSにより時間が取ることができたかはどちらとも言えない。
- ・業務時間中にペアと別れて話を聞けない。
- ・PNSだから時間を取れるとは思わない。

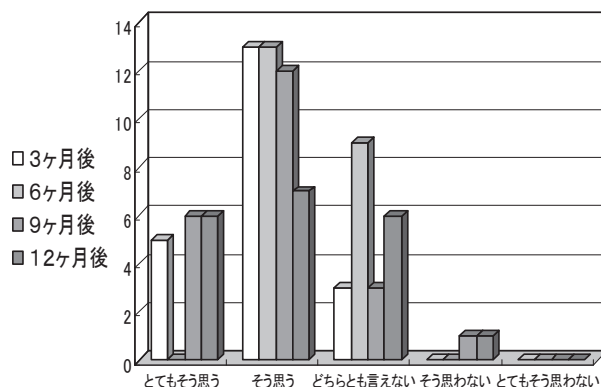


図3 プライマリー患者と深く関われるようになったか

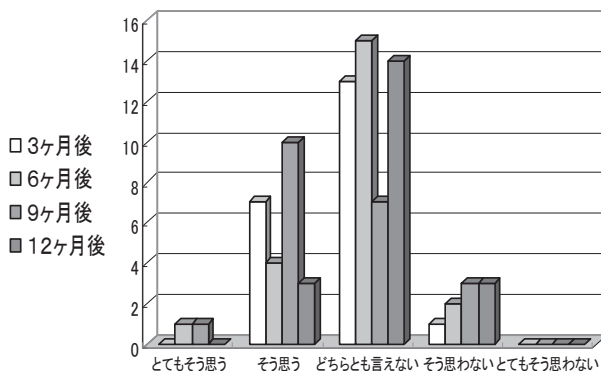


図4 患者の精神的援助のための時間を取ることができるようになったか

## Ⅵ. 考 察

### 1. 安全性について

ペアで行動するため、ダブルチェックがスムーズにできるようになり、インシデントの数が前年比約30%に減少した。しかし、ダブルチェックをしているにもかかわらず0%にはならなかった。

ダブルチェックは、各自が責任を持って業務を行い、ペアで行動することで、安全性を向上させる。しかし、PNS体制に慣れが生じ、ペアに対して相手がやってくれているだろうという思いこみや、甘えが生じ、自己の確認を怠ることがある。また、ペアから依頼された事柄の根拠を考えずに実行することは、間違った判断に繋がる。つまり、「自立・自助の心」が欠けているのではないだろうか。自分で考え判断したうえで確認し、それぞれが責任を持って行動することで、より高い安全性に繋がると考える。

さらに、休憩前後など、ケアの引き継ぎの場面やオーダー処理などのダブルチェックが必要な場面で、お互いに確認するための声かけが十分にできていない。つまり効果的なコミュニケーションが不足しているため、ダブルチェックを行えていない現状がある。すなわち「複眼の心」も欠けているのではないかと考えられる。

依頼したことは中途半端にせず、再度確認することや業務終了前にペアでワークシートや注射箋、カルテなどの媒体を用いて、最終確認をする。このような確実なダブルチェックに繋がるコミュニケーションを取ることができれば、安全性が向上するのではないだろうか。

### 2. プライマリーナーシングについて

図3の結果より、プライマリー患者に深く関われていると感じている意見が多くを占める。日勤帯では必ずプライマリー患者を担当するため、関わる機会や時間が以前より増え、患者の些細な変化に気づき、問題に対しタイムリーに対応できるようになってきたことから、このような結果が得られたと考えられる。

しかし、患者への関わりの中で、図4の精神的援助のための時間は、導入9か月以降取られてい

ないという意見が増えている。これらのことから、深く関われているのに、なぜ精神的な援助ができていないという結果が生まれたのかを考える。

プライマリーナーシングが充実できているという判断は、個々の看護師の感じ方により異なる。看護観が異なり、看護の到達点をどこにするかで看護を提供した満足度は異なってくるため評価は難しい。

精神的援助の時間が取れない、プライマリーナーシングが推進できていないと考えているスタッフの意見として、「忙しくて時間が取れない」「ペアで働いているため、ペアとの業務を優先してプライマリー患者とゆっくり話せない」という意見があった。特に導入9か月以降は入院患者数やケア度が急増したことも理由の一つである。

日勤帯はペアで行動することが定着し、業務の効率性も高まっているが忙しいという理由で精神的援助の時間が取れていない。それは適切な業務調整が行われていない現状と、精神的援助は時間にゆとりがある時にプライマリーが個人で行おうと考えている傾向があるためと考える。

業務調整を行う上で、精神的援助の時間も組み込み、ペアに関わっていくようにスタッフの意識を変化させる必要がある。業務開始前に、プライマリー患者のどこに重点を置いて関わるかを自己にて考え、その際患者の身体的問題と共に精神的援助の必要性を考慮する。それは「自立・自助の心」である。そして、キャリアや看護観の異なるペア同士が意見を出し合うことで、より看護が深まり、質の高い看護が提供できる。また個々の看護師の看護力が高まる。それが「複眼の心」であり「与える心」である。

精神的援助を念頭に置いた十分な業務調整を行うことができれば、時間を確保し、ペアで患者と関わるができる。つまり、プライマリーナーシングの推進に繋がるのではないかと考えた。

この考察を通して、PNSの3つのマインドとして「自立・自助の心」「与える心」「複眼の心」を併せ持つことがPNSにおいて重要であると再認識できた。

## Ⅶ. 結 論

- 1) 自分で考え判断・確認し，責任を持って行動する．
- 2) ペアで確実なダブルチェックに繋がるコミュニケーションを取る．
- 3) 精神的援助を念頭に置いた十分な業務調整を行う．

以上のことが，1年間を通して挙げられた課題である．

## Ⅶ. おわりに

今回の結果として挙げた課題を解決するために，PNSのマインドの再認識することで安全性と効率性の向上・プライマリーナーシングの推進・OJTの充実に繋がると改めて認識した．これからは常にマインドを意識し，質の高い看護が提供できるよう病棟として取り組んでいく．